

70 周年の思い出



国際ロータリー会長
田 中 作 次

熊谷ロータリークラブの創立 60 周年に際し、心よりお喜び申し上げます。ロータリー・クラブにはそれぞれの性格と特徴があり、独自の奉仕方法があります。新しいロータリー・クラブの設立は、より良い地域社会をつくるために、思いやりと熱意にあふれた人々が集まる場所、つまり地域のより所をもたらすことでもあります。

私が八潮ロータリー・クラブの創立会員となった当初、それが大きな意味を持つことになるとは、思ってもみませんでした。しかし、私の町に新しいロータリー・クラブをつくり、創立会員になるよう勧めてくださった方々に、私は心から感謝しています。その方々のおかげで、私の人生はさまざまな意味で、もっと豊かで、幸せで、充実したものとなりました。また、八潮市ももっとよい町になりました。

この 60 年間、貴クラブの奉仕活動によって、熊谷市に豊かな恩恵がもたらされたと私は確信しております。この重要な節目をお祝い申し上げると共に、「奉仕を通じて平和を」のこの 1 年における貴クラブのさらなるご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

2012-2013 年度国際ロータリー

会長

さらなる発展を



国際ロータリー第 2570 地区
ガバナー
鈴 木 秀 憲

熊谷ロータリークラブの創立は昭和 28 年 10 月との事です。この半年後の昭和 29 年 4 月に日本で初めて自動車ショーが日比谷公園で開催され、小学 6 年生になったばかりの私は、心躍らせて開催場所の日比谷公園へ向かいました。展示されていた多くはトラック等の商用車で、トヨタの乗用車はクラウン（登場は昭和 30 年）の前の型のトヨペット・スーパー、日産はブルーバード（登場は昭和 34 年）の前の前の型のダットサンでした。いすゞ・ヒルマンミンクス、日産・オースチン A40、日野・ルノー 4CV 等の外国車のノックダウン車が時代の花形でありました。これ等の多くはタクシーとして使われ、一般家庭には自家用車など夢のまた夢の時代でした。

日本経済の発展はこれからと云うこの時代に、諸先輩の努力の結果、熊谷ロータリークラブが誕生した事は、その後の日本経済の発展を鑑みるに、正にその先駆けとして、時宜を得た設立であったと考えます。

以来、当時の会員各位の口では表せない程の努力の蓄積があって、今日の熊谷ロータリークラブの隆盛があると存じます。

そして地区内第一の会員数を誇る大きなクラブであるにもかかわらず、例会の雰囲気は和気あいあい、会員各位が正にロータリーライフを楽しんでいる様に見受けられます。熊谷ロータリークラブを表現すると、歴史と伝統を尊重しながらも、若い人々をも受け入れ、過去から未来へ向かって悠々と流れる大河を連想せざるを得ないと考えます。

人材も豊富で、各分野で活躍されている方々を包括し、年齢も若年から先輩まで幅広く、バランスの取れた構成になっていると感じます。

今後も更に活発な組織運営と事業をなされ、ロータリー社会でのみならず、地域・広域に於けるオピニオン・リーダーとして発展されます事を祈念申し上げます。

熊谷ロータリークラブ創立 70 周年を祝して



熊谷市長
小 林 哲 也

熊谷ロータリークラブ創立 60 周年、誠におめでとうございます。

貴クラブと私ども川越クラブが隆盛の内に、今日を迎えられ事は大変に感慨深く、お祝いの言葉を申し上げます。

また、貴クラブの創立に、祖父山崎嘉七が特別代表としてお手伝いさせて頂き、まさに兄弟と言えるクラブでございます。

国際ロータリーの創立 50 周年当時は埼玉県には熊谷、川越、浦和、大宮の 4 クラブであったという事です。現在は県下 2570 地区、2770 地区では総数約 130 クラブとなっております。これは歴代ガバナー、各クラブの会長の方々の幾多の困難を乗り越えられ、今日までに世界に、地域に根差した奉仕活動を継続してきた事が、広く社会に評価された証だと思えます。

また、ロータリーとは奉仕をする団体ではなく、奉仕をする人達が集まった団体であると先輩から教えて頂いた事を思い起こします。綱領、四つのテストをはじめ今一度ロータリーの原点を見つめ、高い倫理観を持って奉仕活動に取り組む事が必要かと思えます。

熊谷、川越両クラブは歴史と伝統あるクラブとして、相互に切磋琢磨して共に発展していく事を誓い合いたいと思います。

結びにあたり、今後もロータリーの友情と奉仕の精神で、より一層発展されます事を心よりお祈りして、祝辞と致します。



熊谷商工会議所会頭
大久保 和 政

熊谷ロータリークラブが創立 60 周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

貴クラブは、昭和 28 年、埼玉県では第 2 番目のロータリークラブとして創立されました。以来、60 年の長きにわたり、誇りある老舗クラブとして社会貢献活動に率先して取り組み、第 2570 地区の中心的役割を果たされています。

藤間憲一会長をはじめ会員の皆様には、日頃から、中心市街地の活性化やクールシェア、星川プロジェクトなど地元熊谷に根差した問題に取り組み、地域社会の発展のために御尽力をいただいていることに深く敬意を表します。

日本は今、生産年齢人口の減少と経済のグローバル化という二つの巨大な構造変化により、大きな転機を迎えています。これ乗り越え日本を再生させるためには、私たち国民が目目の現実の正面から向き合い、できる範囲でなすべき事をなすという自立自尊の精神が必要だと考えています。

このために私は、一人一人が自立して課題解決に努める「自助」、地域の人々が共に支え合う「共助」、公的な仕組みが支える「公助」の三つがバランス良く力を発揮し、より良い地域社会をつくりあげる「自立自尊の埼玉」の実現に取り組んでいます。

「共創、共助、共感」を活動計画の指標とされている貴クラブは、正に私の考えと軌を一にするものであり、誠に心強い限りであります。皆様には、地域の発展や日本の再生のために、今後ともより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

熊谷ロータリークラブが創立 60 周年を契機にさらに大きく飛躍されることを御期待申し上げ、お祝いの言葉といたします。